

# 第24回 藤枝市総合教育会議

日 時 令和5年5月31日（水）午前10時30分～正午  
場 所 西館3階 特別会議室

## 次 第

1 開 会

2 市長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 協議事項

- ①令和5年度「教育日本一」に向けての取組
  - ・特別支援教育の推進について（登校支援教室・する～ぱす）

5 その他

6 閉 会

# 令和5年度「教育日本一」に向けての取組

## ～「豊かな学びで 笑顔をつなぐ」の実現に向けて～

### 1 豊かな心の育成

子供が自主的に読書活動に取り組み、読書習慣を身につけ、読書から様々なものを学ぶことができるよう、幼少期からの成長過程に応じた本に親しむ機会の提供と読書活動の啓発を行い、情感豊かな心の育成を支援する。

【推】電子図書館事業の推進

### 2 きめ細やかな学びの保障

市内すべての小中学校に配置した「特別支援教育支援員」に加え、看護師資格を有する支援員を「学校看護師」として継続配置し、医療的ケアを必要とする児童を支援していく。また、引き続き別室登校する生徒に対する不登校の未然防止と早期対応を図るための「登校支援教室指導員」を配置する。

<【推】特別支援教育支援員等活用事業>

- |            |     |            |                   |
|------------|-----|------------|-------------------|
| ○特別支援教育支援員 | 65名 | ○学校看護師     | 4名(青島小・高洲南小・青島東小) |
| ○学校生活支援員   | 40名 | ○登校支援教室指導員 | 10名(全中学校)         |

### 3 たくましく生きる力の育成

英語で日常会話のできる人材を育成するため、ALTの積極的活用を推進し、国際交流を行っているペンリス市の学校との交流を強化することで、児童生徒が外国人講師や異文化と触れあう時間を大切にしたい英語教育の充実や、小学校6年生と中学校1年生は同じALTが受け持つ、小中学校接続英語プランなど確かな学力につなげるなど、児童生徒の英語コミュニケーション能力が向上するよう推進する。

【推】英語指導助手小中学校接続配置      【推】スカイプ等を活用した子供の交流

### 4 健やかな体の育成

子供の体づくりの基本となる、安全安心でおいしい学校給食を提供するため、地産地消の推進や、食育の推進を図るとともに、新たな給食センターの整備を進めていく。また、学校給食用食材の継続的な使用を図ることができるよう、給食センターと営農者をつなぐ地産地消コーディネーターを配置する。また、持続可能な運動部活動の構築に向けて、部活動の地域連携を推進する。

【拡】新学校給食センターの整備(基本設計・事業認定)      【新】学校給食地産地消推進事業  
【新】部活動地域移行推進事業費

### 5 子供たちの学びを支える環境づくり

<【推】トイレ環境改善事業>

小学校2年生以上も各フロアで改修されたトイレ(洋式トイレ等)を使用できるよう、引き続き整備していく。令和5年度で小学校は完了し、令和6年度から中学校を整備する。

令和5年度整備実施校 設計：藤枝中、葉梨中、岡部中  
工事：藤枝中央小、高洲小、青島北小

<【拡】空調設備整備事業>

市内小中学校の普通教室の空調設備は全て整備済みであり、特に利用頻度が高い特別教室(理科室・音楽室)を引き続き整備していく。令和5年度で中学校は完了し、令和6年度から小学校を整備する。

令和5年度整備実施校 設計：藤枝小、青島小、高洲小、高洲南小、青島北小  
工事：西益津中、大洲中、青島北中

### 6 生涯にわたる多彩な学びの推進

人生100年時代に即し、生涯にわたり学ぶことで、一人ひとりの生きがいや幸せにつながるよう、受講者の意見を広く聞き、ニーズを把握したカリキュラムを組むなど、市民の学習意欲に応える学びの環境を提供していく。

【推】藤枝市民大学事業の推進

## 登校支援教室について

(教育政策課)

### 1 目的

諸事情から在籍学級の学習や諸活動に参加できない生徒や、欠席が長期化している生徒に、学級担任・教科担当・登校支援教室指導員・スクールカウンセラー等が協力して、組織的・計画的に、個に応じた指導や支援をすることによって、居場所の保障をして、社会的自立（学校・学級復帰を含む）に向けた支援の場となることを目的として登校支援教室を設置した。

### 2 概要

令和4年度から市内全10中学校に登校支援教室を設置し、各校1名の登校支援教室指導員を配置した。登録者数は4月当初35名であったが、令和4年度末には102名となった。



自分で日課を決めるためのボード



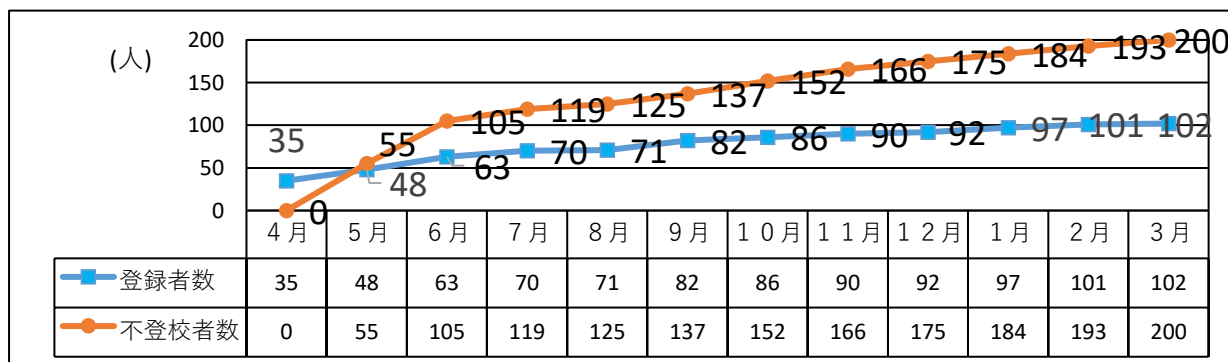
オンライン学習もできる個人学習のスペース



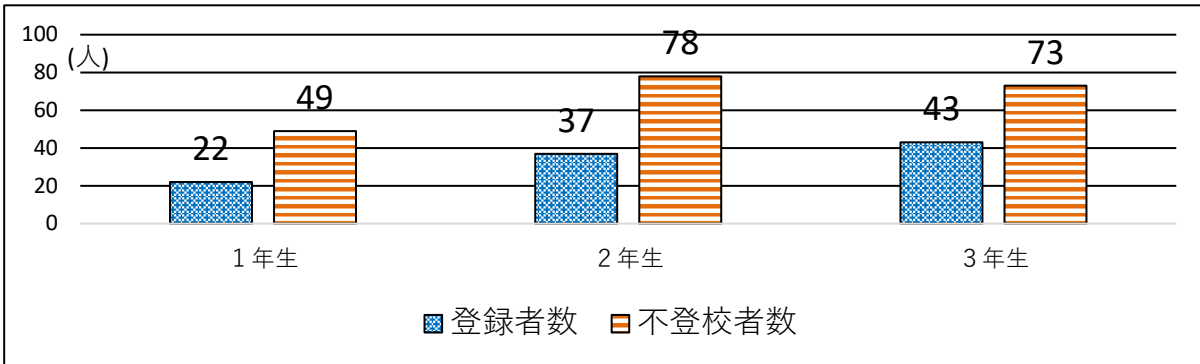
みんなで話し合いもできる  
集団学習のスペース

### 3 実施状況

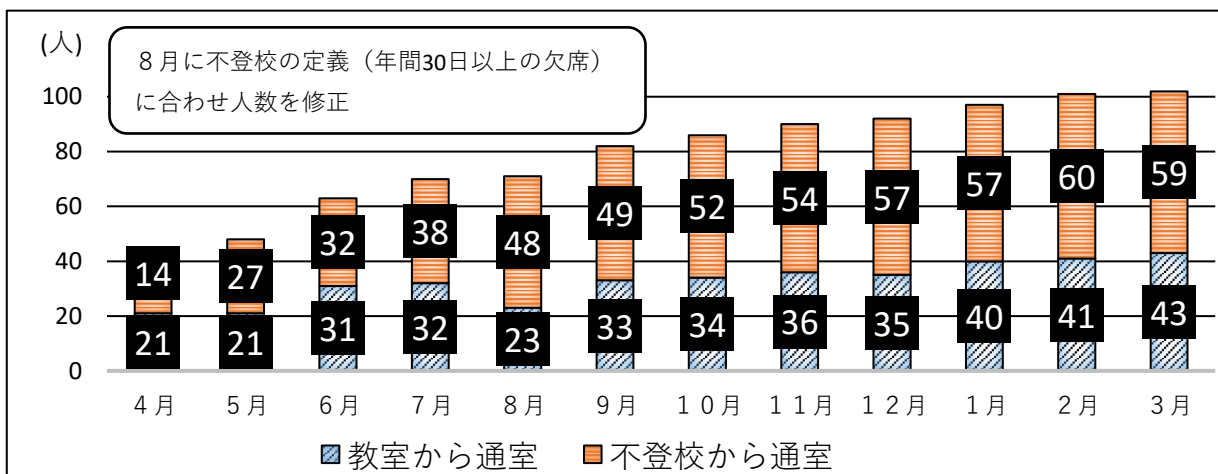
#### (1) 登録者数と不登校者数の推移



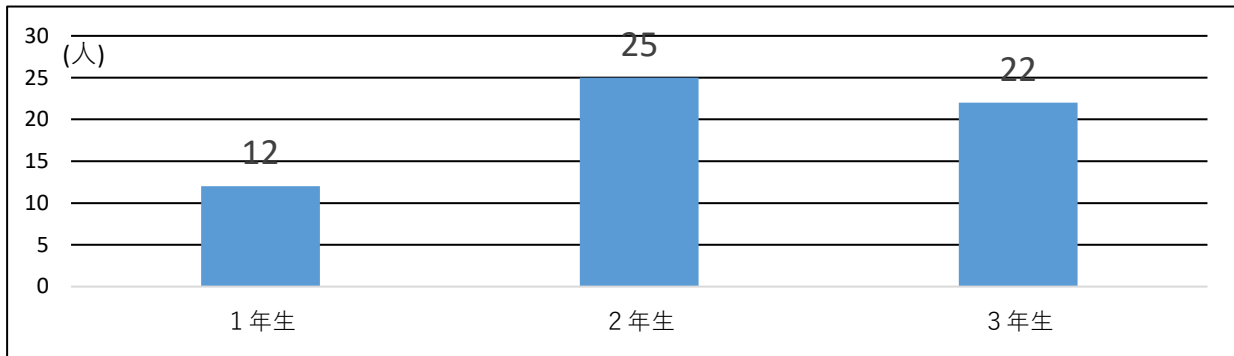
(2) 学年別登録者数と不登校者数 (3月末)



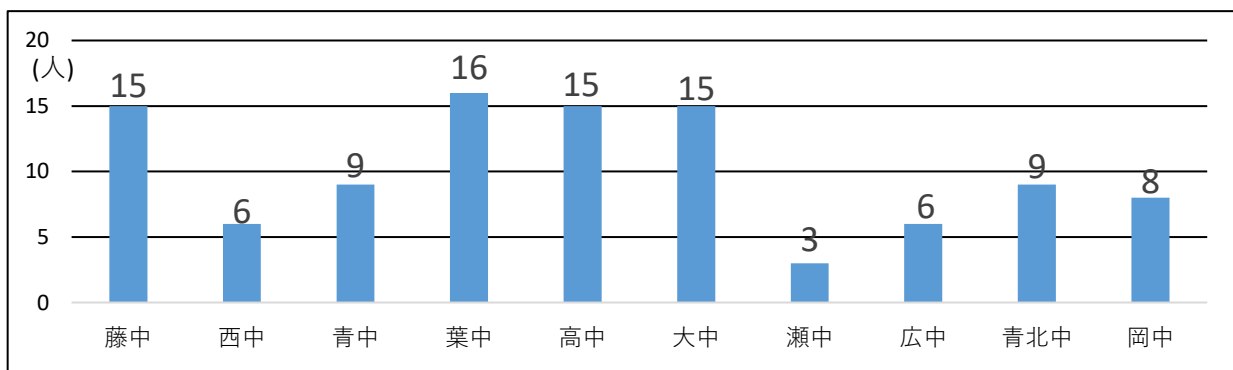
(3) 登録生徒の月別状況



(4) 不登校から通室者数の学年別内訳 (3月末)



(5) 学校別登録者数 (3月末)



#### 4 成果

- ・102名の登録者がおり、また、通室から教室復帰した生徒が20名（うち3名は再び登校支援教室へ通室）いることから、新たな居場所の保障をし、不登校の未然防止や初期対応とすることができた。

#### 5 課題

- ・教室が手狭になったり、指導員一人では個に応じた丁寧な指導ができない状況があったりする学校がある。
- ・登校支援教室指導員の中に、する～ばすの指導員を兼任している者がおり、する～ばすで指導した生徒の授業中の様子を観察するための時間の確保が難しい
- ・増加している小学生の不登校への対応。

校種		24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年
小学校	不登校児童数	28	35	27	29	36	46	49	46	69	97	128
	出現率	0.35%	0.44%	0.34%	0.37%	0.45%	0.58%	0.61%	0.58%	0.88%	1.24%	1.65%
中学校	不登校生徒数	88	111	120	136	110	99	109	128	145	182	200
	出現率	2.22%	2.80%	3.07%	3.50%	2.94%	2.65%	3.00%	3.51%	4.00%	5.02%	5.43%

##### 【令和4年度小学生の不登校者数128人の内訳】

1年生5人・2年生10人・3年生18人・4年生20人・5年生36人・6年生39人

##### 【令和4年度中学生の不登校者数200人の内訳】

1年生49人・2年生78人・3年生73人

#### 6 今後の方向性

- ・登校支援教室指導員の指導力の向上に努めながら、人員を安定的に確保する。
- ・小学校に登校支援教室を設置することについて、調査研究を進めていく。

## 中学生に向けた発達障害支援事業「する～ぱす」について

(教育政策課)

### 1 目的

通常学級に在籍する発達に課題を抱える中学生を対象とし、自分の気持ちや意見を相手に伝えるスキルを身に付け、よりよいコミュニケーションをはかる方法を学ぶための支援を行う。

### 2 概要

#### (1) 「する～ぱす」の意味

「スルーパス」はサッカー用語で「相手の選手と選手の間を抜けるパス」のことで「チームワークの良さで一気にボールを前に進めることで、大きなチャンスが生まれるパス」のことを指している。藤枝市中学生のための支援教室は、人間関係で折り合いをつけながら、自ら前に進んでいくことが人生のチャンスを生み出し、未来をひらくことができるという願いを込め、「する～ぱす」と名付けられている。

#### (2) 指導・支援時間

月・火・木・金（帰りの会から） 15：30～16：30

水 15：00～16：30

※人数が多数の場合は、隔週の指導または前期（4月～9月）後期（10月～3月）による2期に分けての指導となる。

#### (3) 指導・支援内容

指導員の研修会を年3回行い、指導の専門性を高めている。

また、「する～ぱすスーパーバイザー」として専門家を2名配置し、各学校の巡回及び研修会での講師を務める。生徒一人一人の指導方針、指導計画については、巡回相談や心理士による発達検査結果をもとに、「する～ぱすスーパーバイザー」を中心として決定し、各学校の指導員に伝えている。

各学校の指導員の指導状況については、「する～ぱすスーパーバイザー」及び「藤枝市特別支援教育アドバイザー」が把握し、指導・助言をしている。

#### 【指導・支援の例】

- ① 脳の活性化、気持ちの切り替えのためのウォーミングアップ
  - ・ビジョントレーニング ・想像力のトレーニング など
- ② 主な活動となるソーシャルスキルトレーニング
  - ・自分を励ます魔法の言葉、プラス思考とは
  - ・アサーション（自分にも相手にも気持ちいい声かけ）トレーニング など
- ③ 指導員とのコミュニケーションを円滑にし、次回へのつなぐ楽しい雰囲気をつくるエンジョイタイム
  - ・コミュニケーションを必要とするカードゲーム など

### 3 実施状況

#### (1) これまでの経過

- 平成 24 年度 藤枝市の独自事業として、中学生のための支援教室「する～ぱす」を藤枝市勤労青少年ホームに設置し、支援を開始。
- 平成 25 年度 藤枝市勤労青少年ホーム、市内中学校 2 校（藤枝中・青島中）に教室を設置。
- 平成 26 年度 藤枝市勤労青少年ホーム、市内中学校 4 校（藤枝中・青島中・高洲中・岡部中）に教室を設置。
- 平成 27 年度 指導時間を増加し、支援の拡充を図る。
- 令和元年度 市内全中学校 10 校に教室を設置。  
自校での支援が可能となる。
- 令和 2 年度 通級希望者増加のため、指導員を 11 名に増員。
- 令和 3 年度 指導員を 13 名に増員。
- 令和 4 年度 指導員を 14 名に増員。
- 令和 5 年度 指導員を 15 名に増員。

#### (2) 令和 5 年度在籍生徒数及び指導員数

( ) 内は令和 4 年度

学校名	する～ぱす在籍生徒数 (名)				指導員数 (名)
	1 年	2 年	3 年	合 計	
藤枝中学校	8	4	3	15 (11)	2 (1)
西益津中学校	4	2	3	9 (8)	1 (1)
青島中学校	7	7	5	19 (14)	2 (1)
葉梨中学校	5	7	4	16 (14)	2 (2)
高洲中学校	3	7	8	18 (19)	2 (2)
大洲中学校	1	3	2	6 (11)	1 (1)
瀬戸谷中学校	2	1	1	4 (2)	1 (1)
広幡中学校	6	10	4	20 (21)	2 (2)
青島北中学校	3	1	1	5 (4)	1 (1)
岡部中学校	3	4	1	8 (6)	1 (2)
合 計	42	46	32	120 (110)	15 (14)

### 4 成果

- ・コミュニケーションに課題を抱える生徒が、ソーシャルスキルトレーニングを継続することで、感情をコントロールする力や自分の気持ちを表す力、前向きに考える力などを高め、学校生活で生かす場面が見られる。
- ・継続して指導員が関わることで、生徒との信頼関係が深まり、生徒が安心して過ごせる居場所としての役割を果たしている。
- ・小学校での発達通級指導教室対象者のみでなく、中学進学後に困り感を感じている生徒の受け皿としての機能を果たしている。

- ・「する～ばす」の認知やよさが広まり、年々通級希望者が増加している。

年 度	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
する～ばす 在籍生徒数	54名	106名	108名	110名	120名 (5月24日現在)

## 5 課題

- ・年度途中の入級希望が増えており、生徒・保護者の希望に柔軟に対応できる体制づくりが必要である。
- ・指導員増員により、新規指導員への研修体制の整備を要する。
- ・小学校におけるLD児の増加に対応して、令和3年度にLD指導に特化した発達通級指導教室を開設したが、「する～ばす」はコミュニケーションの支援のため、中学校での支援の継続が必要である。

## 6 今後の方向性

- ・発達に課題を抱える中学生のコミュニケーションの支援を図るため、「する～ばす」の設置は継続する。
- ・対象生徒の増加が見込まれるため、指導員の増員と指導体制の整備を行う。また、指導内容の充実を図り、指導員養成を強化する。
- ・学習に関する困難さを抱えている生徒の状況を把握するため、令和5年度市内中学校全生徒にタブレットを活用したアンケートを実施する。アンケート結果次第では、学習の困難さを抱える生徒に対し個々にあった指導を行うため、市内中学校にLDに特化した通級指導教室の設置を検討する。